

価値と感情の多層性

往住彰文（東京工業大学）・良峯徳和（湘南国際女子短大・東京工業大学）
加藤雄一郎（東京工業大学）・篠田直和（東京工業大学）
{akt, yosimine, yu-kato, shinoda}@valdes.titech.ac.jp

目的

文学鑑賞過程を構成する認知諸過程の一部として、価値の認知過程があることを提案する。価値評価に関わる認知過程は、信念の推論、信念の固定、審美的感情などの下位認知過程に分解できることを議論する。

理解の多層性と主観的鑑賞

われわれがこれまで理解の多層性として想定してきたのは、次のような下位過程であった。

- ・問題解決的理解（登場人物の意図、目標、計画に関する推論に基づく物語理解）
- ・感情推論的理解（登場人物の感情に関する推論に基づく物語理解）
- ・感情喚起的理解（読者における感情の喚起に基づく主観的鑑賞）
- ・願望喚起的鑑賞（読者における願望の喚起を主とする主観的鑑賞）

これに、以下の下位過程を付け加えることで、価値評価が関与する認知過程を包含することを試みる。

- ・信念推論的理解（登場人物の信念に関する推論に基づく物語理解）
- ・信念支援的鑑賞（読者における信念の固定を主とする主観的鑑賞）

テキスト自体に向かう「より正確な」理解過程と、読者自身の問題へ向かう「私的」な鑑賞過程を区別して扱う。また行為指向的である感情層と、推論指向的である信念層を区別することで、それらの相互関係がモデル化しやすくなることが期待される。信念が関連する認知過程について、以下の観点から考察をおこなう。

- ・物語を経由する信念形成（読書の機能もしくは副産物としての信念固定）
- ・虚構の事例からの信念形成（虚構の物語と読者の既有知識、既有体験の利用による信念の固定）
- ・感情喚起的過程を経由する信念形成（感情過程と信念過程の交互作用）

感情の多層性

登場人物の動きを中心とする物語内容に関連する感情過程に加えて、文学テキストの形式的側面に関連する審美的感情(aesthetic emotions)の過程を導入する。物語内容の構造、テキスト構造、文体といった特徴の質に対する「賞賛」「承認」「感心」「快感」などの審美的感情を想定している。この感情過程についても、テキストがもつ特徴だけでなく、読者の既有知識、既有体験の関与を考慮することができる。

付録：分析適用テキスト例（山科春樹「忍耐の祭り」講談社、1980より）

「そうでしたか？」

テツの声はかすれ、甲高かった。アキラは見えるか見えないかというほどわずかに、うなずいた。

「そうだった」アキラは視線を宙に迷わせた。「おやじさんというのが、頑固な人でね。そんな息子は知らないのさ。おれが確認して、又従兄か何かが遺体を引きとった。正月に田舎へ帰るから、そのときおれがおやじさんに会ってくるさ」

「僕に特別な話っていうのは？」

「ああ……冷静なときにな。顔を出すなど言ったのは、わけがあるんだ。……それに、ひどい有様でね。見たってわかりやしないのさ。反省組の被告のおれとしては、最後に会ったときは運動から足を洗えとすすめたのに、思いつめた顔をして、聞き入れなかったとだけ言っておいた。……おれを殴りたければ、殴ればいい」

テツは怒りとも何ともつかぬ感情に動かされて一、二歩つめよりかけた。それから思い直し、客席へ戻ろうと、物も言わずアキラに背を向けた。アキラが静かな声で呼びとめた。

「なあ、茉莉にはおれが知らせておくからな」

その声にアキラの感情のひびきを感じとって、テツはぴくっと身を震わせた。そしてもう一度振り向いた。二人の視線が正面から出会った。テツはできるかぎり自分を抑えて、言った。

「何だっていうんです？ 鷹夫が事故で死んだって？ それとも自殺したとでも？」

（「忍耐の祭り」p.6～7）

いきなり頭の上から音楽が聞こえてきた。

「やってるな？」

曲はビートルズらしかった。強くひびくりズムの中から、テツは「ノルウェーの森」の単調でぶっきらぼうなメロディと歌詞をききわけた。

「夜のこんな時間にビートルズを聞くと、色々思い出すなあ」

「へえ？」

「一度小説に書こうとしたんだけど……」

（忍耐の祭り p.41～42）

ここから先、順序を追って思い出すことは苦痛だった。断片、断片的な記憶の雪崩……。

夏休みに顔なじみになった、フランスの俳優のような横顔の、清涼飲料会社のアルバイトの高校生。二人は大学で再開し、容が彼にレオというあだ名をつけることになる。というのも、テツたちは高校のバリエードの中から、赤い毛語録をかかげるジャン・ピエール・レオの出る「中国女」を見に映画館まで出撃し、あらゆるシーンで「異義ナシ！」を叫んだものだったから。

（忍耐の祭り p.45）